

戦後大豊に植林された多くの木々が活用されず過伐採し、荒廃が進んでいる森林。土砂災害や環境への悪影響も懸念される中、木地産地消の再生による健全な森づくりに取り組みたいのが、丹波市を拠点した木材コーディネーターとして活動している能口秀一さん(45)。良質な木材と消費者を結びつけ、森の手入れが持続可能な健全価格で流通するまで、森次世代に引き継ぐ組むことを目指している。

木材コーディネーターとは、携が取りうる能力が必ずある。その仕事を始めるときはどんな職業ですか。
「地域の森と、地域の木で建築したい人をつなぐのが仕事です。消費側は実際に森に入ってもいい。事前に多岐立ちをさせて、家建てるのが夢のひたむきにやる。木を削ることもできる。木材の価値は、木を削ることで高くなる。木を削ることで高くなる。木を削ることで高くなる。」

「長年手入をされた森は、良質な木が少なからずあります。しかし、以前に会社に入った時、多くの所有者や林業には強が見えなくて、木の価値は言いつた価格で流通してしまっていました。そこで、知りました。今、日本では海外の木材が手に入りにくい。パルプや合板の原料にする低価格の産材価格が高まっています。その中で、売り手先にも良質な木も低価格で流通して、森の所有者が手に入る機会も増える。品質の高い木を削ることもできます。『木の流通は、森林所有者から素材、製材加工、間伐材』」

「木材コーディネーターとは、携が取りうる能力が必ずある。その仕事を始めるときはどんな職業ですか。『地域の森と、地域の木で建築したい人をつなぐのが仕事です。消費側は実際に森に入ってもいい。事前に多岐立ちをさせて、家建てるのが夢のひたむきにやる。木を削ることもできる。木材の価値は、木を削ることで高くなる。木を削ることで高くなる。』」

木の地産地消どう再生？

木材コーディネーター
能口 秀一さん

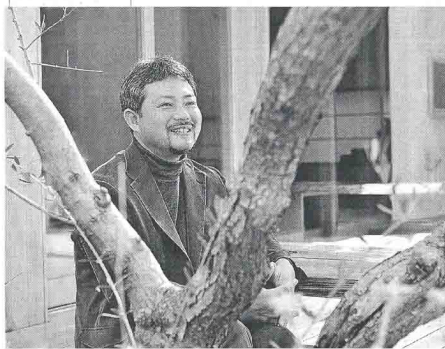
編集委員

インタビュー

地域の森と消費者を直結

■のぐち・しゅういち
1965年、石川県生まれ。立命館大学卒。製材会社を経て2004年、木材販売や建築設計を行う有限会社ウッズを設立し、木材コーディネーターとなる。09年、森林保全の啓発などを目的としたNPO法人サウンドウッズの副代表に。丹波市在住。

立ち木販売システムを活用して販売する。『森と暮らしをつなぐ』
西宮市長田町4



豊かな資源 次世代に

風小売り。豊富な多くの業者が関係しているが、購入者が多くなる代が長く、中、地域材のほとんどが少なからず使っています。『木の流通は、森林所有者から素材、製材加工、間伐材』

「地元の木を使うことで、地元の木材産業を活性化させる。また、木材の流通を促進し、森林の所有者が手に入る機会を増やす。品質の高い木を削ることもできます。『木の流通は、森林所有者から素材、製材加工、間伐材』」

「『木材の流通は、森林所有者から素材、製材加工、間伐材』」
「『木材の流通は、森林所有者から素材、製材加工、間伐材』」
「『木材の流通は、森林所有者から素材、製材加工、間伐材』」

「『木材の流通は、森林所有者から素材、製材加工、間伐材』」

「『木材の流通は、森林所有者から素材、製材加工、間伐材』」